

第138回 経営協議会（定例）議事要旨

日 時 令和4年9月22日（木）13:30～15:16
場 所 事務局特別会議室（4階）

- 議題1. 国立大学法人鹿児島大学職員給与規則の一部改正について（資料1）
議題2. 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和4年度）について（資料2）
議題3. 国際交流会館の寄宿料の徴収について（資料3）
議題4. 令和4年度学内変更予算第1号（案）について（資料4）
報告事項1. 令和5年度概算要求（対財務省）について（資料5）
報告事項2. 経営協議会学外委員による学内視察について（資料6）
報告事項3. 今後の経営協議会の協議事項の議題等について（資料7）
報告事項4. 令和4年人事院勧告について（資料8）
報告事項5. 法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターの設置及び同センター設置に伴う学則の一部改正について（資料9）
報告事項6. 地域の医師確保等の観点からの令和5年度医学部入学定員の増加について（資料10）
報告事項7. 共同研究講座「CRS 資源循環システム共同研究講座」の担当予定教員の変更及び設置期間の延長について（資料11）
報告事項8. 鹿児島大学DX推進のための情報収集体制について（資料12）
報告事項9. 令和3事業年度財務諸表の承認について（資料13）
報告事項10. 本学教育研究評議会での審議事項等について（資料14）
報告事項11. 記者発表事項等について（資料15）
協議事項1. 附属学校園を主とした教育学部の経営の現状と今後について（資料16）

その他

[出席委員] 13名

佐野学長

(理事) 馬場、越塩、岩井、武隈、田頭

(学内委員) 坂本

(学外有識者) 池田、上村、津曲、中村、福元、山野

[欠席委員] 2名

(理事)

(学外有識者) 坪内、塩田

[オブザーバー]

(理事) 石窪、萩元

(監事) 日高、松枝

(副学長) 森

(学部長等) 中島、有倉、岡村、橋口、西村、木下、橋本、佐久間、三角、山口、井戸、中原、寺田

冒頭、学長から稲盛和夫氏のご逝去されたことに伴い黙祷を捧げる旨発言があった。

議題1．国立大学法人鹿児島大学職員給与規則の一部改正について（資料1）

学長から、国立大学法人鹿児島大学職員給与規則の一部改正について諮られ、越塩理事から、鹿児島大学水産学部附属練習船かごしま丸単独利用規則における単独利用（以下「傭船」という。）に伴う、冬季傭船業務従事手当の新設について資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

議題2．国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和4年度）について（資料2）

学長から、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和4年度）について諮られ、岩井理事から、国立大学法人ガバナンス・コードについて、令和4年度の本学の適合状況等について取りまとめるとともに、報告書（案）を作成したこと等資料に基づき説明があり、審議の結果、各原則に係る適合状況の整理及び報告書（案）とも適切であるとして、了承された。

なお、日高監事から、報告書（案）に記載された監事からの意見について説明があった。

また、学外委員から、人事評価結果の本人へのフィードバックの有無について質問があり、越塩理事からフィードバックはされている旨回答があった。

議題3．国際交流会館の寄宿料の徴収について（資料3）

学長から、国際交流会館の寄宿料の徴収について諮られ、馬場理事から、国際交流会館の月の入居日数が半月以内の入居者に寄宿料の月額半額を徴収する改定について資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

議題4．令和4年度学内変更予算第1号（案）について（資料4）

学長から、令和4年度学内変更予算第1号（案）について諮られ、田頭理事から、令和3年度決算における前中期目標期間繰越積立金が文部科学大臣により承認されたことを受け、令和4年度における学内変更予算第1号を策定したことについて資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

報告事項1．令和5年度概算要求（対財務省）について（資料5）

田頭理事から、令和5年度概算要求（対財務省）について、文部科学省から財務省に提出された令和5年度概算要求事項等について、資料に基づき説明があった。

報告事項2．経営協議会学外委員による学内視察について（資料6）

経営協議会学外委員による学内視察について、資料による報告があった。

報告事項3．今後の経営協議会の協議事項の議題等について（資料7）

今後の経営協議会の協議事項の議題等について、資料による報告があった。

報告事項4．令和4年人事院勧告について（資料8）

令和4年人事院勧告について、資料による報告があった。

報告事項5．法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターの設置及び同センター設置に伴う学則の一部改正について（資料9）

法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターの設置及び同センター設置に伴う学則の一部改正について、資料による報告があった。

報告事項 6. 地域の医師確保等の観点からの令和 5 年度医学部入学定員の増加について (資料 1 0)
地域の医師確保等の観点からの令和 5 年度医学部入学定員の増加について、資料による報告があった。

報告事項 7. 共同研究講座「CRS 資源循環システム共同研究講座」の担当予定教員の変更及び設置期間の延長について (資料 1 1)

共同研究講座「CRS 資源循環システム共同研究講座」の担当予定教員の変更及び設置期間の延長について、資料による報告があった。

報告事項 8. 鹿児島大学DX推進のための情報収集体制について (資料 1 2)

鹿児島大学DX推進のための情報収集体制について、資料による報告があった。

報告事項 9. 令和 3 事業年度財務諸表の承認について (資料 1 3)

令和 3 事業年度財務諸表の承認について、資料による報告があった。

報告事項 1 0. 本学教育研究評議会での審議事項等について (資料 1 4)

本学での動向等を把握していただくために教育研究評議会での審議事項等を添付している旨説明があった。

報告事項 1 1. 記者発表事項等について (資料 1 5)

本学の最近の主な記者発表事項等の記事を添付している旨説明があった。

協議事項 1. 附属学校園を主とした教育学部の経営の現状と今後について (資料 1 6)

学長から、今回の協議事項は、附属学校園を主とした教育学部の経営の現状と今後について意見交換するため提案した旨説明があり、引き続き、有倉教育学部長から、附属学校セグメントの損益状況や寄附の状況、入学定員や入試倍率等について、資料に基づき説明があった。

説明の後、各委員から次のような意見等があった。

- ① 定員の確保自体が目的となつては本末転倒である。なぜ附属幼稚園を持つ必要があるのかということを考えていただきたい。結論からいうと附属幼稚園は廃止すべきではないかと考えている。その理由として、鹿児島大学教育学部の学生は小中学校の教員免許取得が目的であつて、幼稚園の教諭免許取得は目的となっていないのではないかと。そのため、幼稚園を持っている目的がよく分からないというのが一番大きな理由である。
また、送迎や給食がないなど、働きながら子育てをしていく今の時代の流れにも逆行している。ホスピタリティが足りない部分を補っていくとなると多大な経費が必要であるが、さらに経費をかけてまで幼稚園を存続させることが適切なのかということを考えてほしい。
- ② 財源的には非常に問題があるかもしれないが、実習校や研究校としての存在意義も十分にあると思う。インクルーシブ教育が重要になっていることを考えても存在意義はあると思う。財源的な問題はあっても幼稚園は残していただきたい。
- ③ 鹿児島大学附属幼稚園は残るだろうと思っていたが、鹿児島においては幼稚園だけで残ることは不可能だと判断している。回避する道筋としては幼保連携をはじめ、給食やスクールバス等幅広く必死で模索すべきだと考えている。また、保育士の資格が取得できるようにしないといけない。幼保連携という観点でいくと鹿児島大学の卒業生は使えないということに

なってしまう。幼小保の3つを持つことが社会のニーズとなっており、鹿児島大学として保育園は持たないというのであれば、幼稚園は廃止してもよいのではないか。

園長の専任化については大賛成である。責任をもってマネジメントすることが大切であり、小学校の校長を経験した方が園長をするパターンが多いので、リタイヤした先生でもいいと思う。免許の取得にしても幼稚園に通いやすくする方法にしても幼稚園を廃止するまでには、まだやるべきことがあると思う。

小中学校有償化ということを考えてもいいのではないか。この規模の私立校であれば、通常であれば黒字となるはずである。お金を出すのは保護者や県等が考えられ、鹿児島県の教育にも資することになるため、県が支出することも1つの考えとしてあり得るのではないか。

- ④ 幼稚園から小学校にストレートにいけなくなったのはなぜか。エリート教育ではなく、教える側は様々な子供たちに教育を行うために、いろいろなモデル・パターンの子供が必要であり、それが教育の理念なのではないか。また、高校はできないのか。幼稚園から大学まで設置すればいいのになぜ高校が欠落しているのか。持つことができないのかチャレンジしないのか教えてほしい。
- ⑤ 一千万円に満たない寄附ですら減ってきている中でこのような改革を進めるという考えを見直さないといけない。この前提で議論を進めても中身は生まれてこないのではないかという気がする。これからの改善の資金を寄附でというのはどうしてもすぐわないため、ここを結論づけて新たな議論をしていくべきだと思う。

その他

次回（定例）は、令和4年11月24日（木）13時30分からとなった。